

# トータルケアNEWS

No.64 2017. 3. 31

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会  
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5  
TEL 018-864-2714 FAX 018-864-2742  
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>  
E-mail [chiiki@akitakenshakyō.or.jp](mailto:chiiki@akitakenshakyō.or.jp)

## CONTENTS

- 「福祉教育推進」に向けた実践
- ・大潟村社会福祉協議会
  - ・藤里町社会福祉協議会
  - ・三種町社会福祉協議会
  - ・湯沢市社会福祉協議会

## 福祉教育推進に向けた実践 ～「福祉教育推進セミナー」から～

平成28年6月2日、日本福祉大学の原田正樹教授を講師に迎え、「第1回福祉教育推進セミナー」を開催しました。セミナーでは、「ICFの視点を導入したプログラム」、「社会的包摂に向けた住民向けのプログラム」、「地域の回想法プログラム」について御指導いただきました。これらのプログラムを参考とし、実際に福祉教育に取り組んだ社協から、「第2回福祉教育推進セミナー」（平成29年3月9日開催）で実践報告いただきました。

ここでは、各社協が取り組んだ福祉教育実践の内容をご紹介します。

### ◆大潟村社会福祉協議会

「ふれあい知り合い認めあい」～こころのバリアフリーをめざして～

#### □ 内 容

ICFの視点を導入した福祉教育として、障害者支援施設「大潟つくし苑」（以下「つくし苑」という。）との交流会を実施した。

学校・社会福祉・地域の領域から、地元の小中学生、つくし苑の利用者（知的障害者）、グランドゴルフ愛好会（高齢者）がグランドゴルフをプレーした。チームは、小中学生、つくし苑利用者、社協職員の混合とし、そこに愛好会の方が指導者として加わりチーム対抗戦とした。

その後、昼食交流会を行い、上位チームを表彰して次回への期待を高めるとともに、異なる領域から集まった方々が同じグループで同じく行動し、同じものを食べ

ることで、一緒に関わられることを実感できる機会とした。



グラウンドゴルフの様子

みんなで昼食交流会



## □ 目的

- ・全体的には地域の中で多様性を認め合う気づきの場とする
- ・小中学生は知的障害について知り多様な人を認めるきっかけとする
- ・つくし苑の利用者は多くの人に存在を知ってもらい、関心を持ってもらう
- ・高齢者はグラウンドゴルフ指導者としての役割を通じ、得意・不得意を認め合う場にする

## □ 成果

- ・障害を持った人と直接ふれあうことで、お互いを知り、認め合う気持ちを持つことができた
- ・人の考え方や工夫によってバリアが軽減されることを知り、心のバリアフリーについて関心を持つことができた

## □ 課題

- ・参加人数が少なかったため、地域の中で多様性を認め合う気づきの場としては規模が小さくなった
- ・相互に人格と個性を尊重し合いながら共生できる社会の構築を目指すためには、継続が必要である

## ◆藤里町社会福祉協議会

「藤里小学校 やさしさ広がれ藤里町」・

「藤里中学校 福祉ふれあいプロジェクト」

## □ 内容

「ふるさとの福祉」を学ぶという視点の小学生向けのプログラムと、一人暮らし高齢者のストレングスの視点を導入した中学生向けのプログラムを実施した。

### 【小学生】

町教育委員会が実施している「ふるさと教育」の一環で、高齢者・障害者の疑似体験、デイサービス利用者との交流、町内の福祉施設の訪問と職員インタビューなどを行い、その体験を授業参観で発表した。

- ①オリエンテーション：藤里町の福祉について
- ②体験1：車いす体験、疑似体験装具を使用した買い物体験
- ③体験2：生活支援ハウスの見学、デイサービス利用者との交流・施設見学
- ④体験3：福祉施設の見学・職員インタビュー
- ⑤まとめ・振り返り・発信



こんな車いす見たことない！



どんなお手伝いをするの？

### 【中学生】

3年生が「むつみ会（一人暮らし高齢者交流会）」との交流をメインに、福祉や安心して暮らせる町について考え、交流を通じて学んだことをまとめた。また、1年生は高齢者疑似体験、2・3年生による福祉施設でのボランティア活動のほか、全学年による独居高齢者宅訪問と雪かきボランティアを実施した。

- ①講義：藤里町の高齢者、一人暮らし高齢者について、等（3年）
- ②演習1：むつみ会との交流に向けた準備（3年）
- ③演習2：安心して暮らせる町とは？（3年）
- ④実習1：むつみ会との交流（3年）
- ⑤振り返り：むつみ会での交流を通して学んだこと（3年）
- ⑥実習2：高齢者疑似体験（1年）
- ⑦実習3：福祉施設でのボランティア活動（2・3年）
- ⑧実習4：独居高齢者宅訪問（全学年）
- ⑨実習5：独居高齢者宅雪かきボランティア（全学年）

### □ 目的

#### 【小学生】

- ・生活に不便がある高齢者・障害者の思いを知る、体験する
- ・施設利用者への願いや、思いやり、町で働く人の優しさを知る
- ・他者への尊敬、思いやりの気持ちを学び、自分たちができることを考える

#### 【中学生】

- ・高齢者のイメージやコミュニケーションについて学び、自分たちにできることを考える

- ・高齢者との交流により、講義や疑似体験の学びとの違い、自分との接点を発見する
- ・人間関係を形成する

## □ 成 果

### 【小学生】

体験を通じて学び感じたことを授業参観で発表し、保護者へクイズで出題したり、町民祭で掲示したりと町民が町の状況や福祉施設について理解する機会になった。

また、国語の授業で子どもたちが各福祉施設に向けた「提案書」をまとめ、未来を良くするための何が必要かを

考える機会にもなった。そして町の福祉、地域にある多くの“やさしさ”を学び、「地域を知る」「ふるさとのよさ」を理解することができた。

### 【中学生】

むつみ会との交流を通して、疑似体験や講義で学んだ“高齢者像”とは違う“高齢者の姿”を理解することができ、交流を深めるにつれ“自分との違い”や“接点”、さらには高齢者への尊敬の気持ちを持つことができた。

また、活動の機会を重ねたことで、より地域を知る良い機会となり、「無関心でない地域」への第一歩となった。

## □ 課 題

### 【小学生】

- ・「提案書」の実現に向けた今後の取組み方

### 【中学生】

- ・貧困的な福祉観からの脱却（負のイメージ）
- ・学んだことを町民や地域に発信することができなかった
- ・ボランティア活動をしたいと思えるような取組み



雪かきボランティア



ミズの“がっこ”づくり

## ◆三種町社会福祉協議会

### 「おたすけ愛講座・夏休みジュニアボランティア」

#### □ 内 容

町内の児童・小学生等を対象に、災害時の避難所生活を想定した避難所宿泊体験（1泊2日）を実施した。

食事、睡眠、排せつについて、水、電気、場所、物に限りがある場合を考え、体験することで、避難者同士で協力し「支え合いの心」を育むとともに災害時に役立つノウハウを学ぶため、炊き出し、発電機の可動、避難所生活といった体験のほか、避難生活時のトイレ問題について考えた。

#### 【1日目】

- ①オリエンテーション
- ②生活の場所の設営（どこで、どうやって過ごす？）
- ③断水中のトイレ（どうやってするの？）
- ④夕食づくり（サバイバル飯にチャレンジ）
- ⑤灯りの確保（簡単ランタンづくり）
- ⑥発電機体験（電源を確保してみよう）
- ⑦一日のまとめ・振り返り
- ⑧就寝（ゆっくり眠ること…できるかな？）

#### 【2日目】

- ⑨朝食づくり（アルファ米を食べてみよう）
- ⑩まとめ・振り返り



生活の場が広すぎたり、狭すぎたり…

#### □ 目 的

- ・地域住民の防災に対する考え方や東日本大震災・熊本地震の経験を風化させない
- ・避難所生活が集団生活にならざるを得ない場合を考え、その際のストレスや避難所生活に役立つノウハウを学び、支え合いの心を育む

## □ 成 果

- ・アンケート結果からみた成果としては、プログラムに含めて重点的に学んだ生活場の確保や災害時の食事に関して興味関心が高まった。
- ・最大の目標として掲げた「協力し合う大切さ」を学ぶことについては概ね達成することができた。



サバイバル飯をレクチャーしています

## □ 課 題

- ・参加者が少ないため、今後は各学校への宣伝及び告知方法を検討する。
- ・宿泊が伴い時間的拘束が長いことからボランティアの参加者が少なかった。宿泊を伴う場合はボランティアの活動時間配分を考慮する。
- ・今回は社協のみで実施したが、実際の災害時を想定し、連携すべき関係機関への福祉教育機能が必要であり、次回は関係機関の参加も呼びかける。
- ・一度では伝えきれないため、シリーズ形式にするなど包括的に学べるようにすること。また、例として伝えても子どもたちの心は動かないため、被災当事者が事業を通じて関わる機会をつくり、“リアリティ”を持って子どもたちに伝えられるようフォローアップ活動を行っていく。

## ◆湯沢市社会福祉協議会

「須川、高松地区「みんなで、つないでいこう。地域の人・歴史」

## □ 内 容

地域の回想法プログラムを取り入れ、須川・高松地区の高齢者と子どもたちの世代間交流を実施した。

地域の昔の行事や農作業、そこに働く人たち、運動会等の写真を見せてもらい、説明を受けたことを子どもたちが模造紙にまとめ発表した。

その後、地元で収穫した食材を使って調理し、子どもたちがおにぎりを握り、昼食会を行った。

- ①オリエンテーション（自己紹介）
- ②昔がたり
- ③握手であいさつ
- ④ジャンケン名前取りゲーム
- ⑤地域の方の名前を発表
- ⑥昔の写真を見て地域の方が説明、子どもたちが気づきを模造紙にまとめる

⑦おにぎり、「いものこ汁」づくり

⑧子どもたちの気づき・感想を発表

## □ 目的

子どもたちが自分の生まれた地域を知り、そこに暮らす人を好きになり、お互いに支え合い、助け合うことの必要性を実感し、普段の暮らしの幸せを感じると共に福祉への関心を持ってもらう。



いつの写真？どこで？何をやってるの？

## □ 成果

日ごろ交流することが少ない高齢者等が一堂に会し、昔の農業や運動会、地域の行事などについて懐かしく話し、子どもたちに伝えることができ、子どもたちの元気な姿や表情にふれることができた。

子どもたちは、地域交流や助け合い（結）の大切さを学ぶことができた。また、子どもたちが学んだことを小学校に報告し、参加できなかった子どもたちにも伝達しながら、デイサービスセンターコスモスに模造紙を掲示して地域の高齢者にも小学生の気づきや学びを伝達することができた。

## □ 課題

- ・地域の方々が気軽に参加できるような声かけが必要である
- ・参加者に事前にどんな話をしてほしいか伝える必要がある
- ・小学校の行事として実施することができれば、より多くの子どもたちに参加してもらえる
- ・参加した方々と一緒に振り返る時間を設ける必要がある



握手であいさつ